



外機密

3075

昭和十六年十月一日 豊田外務大臣發  
野村大使宛電報稿

第六一八號

貴電第八七〇號ニ關シ

井口參事官へ寺崎局長ヨリ

一、貴電第八六六號ニ關シテハ往電第六一三號ニテ御承知相成度シ  
ニ我方ニ於テ總テ「カード」ヲ提示セリト云ヒ乍ラモ後カラ後  
ヘ云々ト云ハルルハ一應尤モナリ但シ我方九月四日提案ハ從來  
懸案タリシ三事項ノ外更ニ一般的考慮ヲ加ヘタルモノニテ「ハ  
ル」ノ云ヘルカ如ク「ナローメウン」等ハ致シ居ラス極メテ包

外務省

0 1349

14

41

285

3075

2

括的ナルヲ確信シタルモ在米大使ヨリ從來ノ豫備交渉ノ形式ヲ  
可トスル趣旨ノ電報アリタリト認メ或ハ六月二十一日米案ノ形  
ニ倣ヒタルモノヲ作成シ（往電第五九五號）或ハ懸問ノ一タル  
日支和平根本條件（往電第五九〇號）及駐兵理由（往電第五九  
一號）ヲ右九月四日提案ノ補足乃至説明トシ打電セルハ之レ皆  
外務大臣ノ在米大使ノ對米説明資料ノ全キニ遺憾ナカラシム  
トスル終始渝ラサル誠意ト總理及軍ノ要望ニ基クモノナリ且博  
ナク申サムニ恰カモ同日ノ九月四日在米大使カ六月二十一日米  
提案（前文第一第四（附屬書共）第六及第七章其儘第二章ハ公  
文交換ヲ除外其儘第三章ハ六月十五日日本案同様第五、章ハ

the production and procurement of natural resources

ヲ附加シ六月

外務省

0 1350

15

42

3075

意ニ拘ラス米カ我方ノ「ステートマンシップ」ニ「レンプロケ  
 ート」スルコト尠キヲ遺憾トスル點ハアルヘキモ米ヲ甘ク見ル  
 ト云フカ如キ小兒病的感シテ以テ事ニ當ルモノナシ  
 内地ノ狀況ノ機微ナルハ或ハ御想像ダモ及ハサルヘキヲ俱ル軍  
 首腦部ノ明察、内務關係各官ノ挺身の努力ニヨリ去ル二十七日  
 以後モ今日迄ノ所幸ニ表面平穩ヲ保チ得タルモ事態ハ今後共充  
 分ノ注意ヲ要ス從テ若杉公使ノ親取セラレタル國內情勢ニ比シ  
 更ニ推移アリタルハ勿論ナリ右ハ大使及貴官限リノ含メナリ米  
 備ニ對スル説明トシテハ「米國ニ於テハ日本ノ國內政局ニ對シ  
 誤解アルモノノ如ク、即チ近衛内閣ハ政治的立場強カラサルヲ  
 以テ現政府ト交渉スルモ早晚軍人其ノ他ノ勢力ニ依ツテ顛覆セ

外務省

0 1352 17

3075

二十一日米案ト同様ニ若干ノ修正ヲ加ヘタルモノヲ當方ニ連  
 絡ナク提出セラレタル事實同月十日在京米大使ノ質問ニヨリ初  
 メテ知り驚愕セル次第ナリ其節外務大臣ハ右ハ悉ラク七月十四  
 日發回訓ナラムト可然應酬スルト共ニ右ハ日本文同訓ナレハ至  
 急在京米大使館ニテ英文「テキスト」必要ナラハ寧ろ貴方ニテ  
 國務省ヨリ取寄セラレテハ如何ト申入レタルニ蓋キ前記括弧内  
 ノ事態モ判明シ且九月十日日本大使ハ國務省ニ九月四日ノ  
 「Not official」ナリト申越セリトノ事實モ判明セリ斯ル事實ハ  
 複雑ナル交渉ヲ彌々複雑ナラシメ洵ニ遺憾至極ナリシモ敢テ何  
 等申進メノ次第ナカリシ次第ヲ貴官ニ於テモ諒トセラレタシ  
 三當方ニ於テハ在米大使及貴館員努力ニ拘ハラヌ又我方從來ノ諒

外務省

0 1351

3075

6

ル方彼等ノ理解ニ便ナルノミナラス且事實ナリ要之外務大臣ハ固ヨリ政府ハ一丸トナリ所信ニ向ヒ何モノヲモ恐レヌ毅然トシテ邁進シツツアルモ右國內情勢及ヒ國際情勢ノ現況ニ鑑ミ兩首腦部ノ會談ノ促進ニ熱心ナルハ當然ニシテ之カ爲メ時ニ焦リ居ルトノ感ヲ與フルモ亦已ムヲ得サルヘシ交渉ノ中心ハ既電ノ通リ華府トナシ居ル所ニシテ此點先日ノ外務大臣大使間電話ニヨリ明白ナルヘシ但前述ノ事情ノ爲メ時ニ東京ニテ話シテ先ツナスコトアリテモ已ムヲ得サルヘク之ヲ以テ遷延策等トナスハ外務大臣ノ意ヲ汲マサルモ甚ダシト云フヘシ今ヤ「タイム」カ最モ重要ナル要件ニテ單ニ本件ノ成否ハ太平洋ノ平和延イテ世界ノ平和ニ直接關聯スルニ至レリ右「シーリアス」ナル彼我内外

外務省

0 1354 19

46

3075

6

ラルヘク從ツテ現内閣ト交渉スルモ徒爾ナルヘシトノ觀測カ行ハレ居ル如キモ夫レ皮相ノ觀測ニテ現内閣ニ對シテハ反對論モアルモ裕ニ之ヲ抑ヘ得ヘシ無論過日ノ馬淵大佐ノ放送ノ如キ或ハ中野正剛氏ノ演說ノ如キ表面恰モ近衛「メツセーヂ」ト相反スルカノ如キ演說カ報道セラレタルカ右ハ日本ノ内情ヲ知ルモノニハ其眞意ヲ了解シ得ヘク即馬淵ハ國民ノ鞭撻ニ重キヲ置キ中野ハ例ノ調子ニテ特ニ重視スル必要ナキモノナリ然シ本邦ニ在ル外國ノ新聞記者等ノ之ヲ大袈裟ニ傳ヘ英米ノ新聞ハ「ジャナリスティツク」ノ興味本位ニテ過大ニ重要性ヲ附シ延イテ誤解ヲ起シ居ル如キコトアルモ之等ノ事情ハ恐ラクハ日本ニ滯在セラルル外國使臣ニヨリ解カレンコト期待セラルト説明ス

外務省

0 1353 18

45

443

3075

通信

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

極秘暗號

機密第六二五番電

二一七三〇

着信者

次官

次長

在米館附武官

分室受(七七八)軍令官房

日米交渉ハ豫想通り行詰トナレル所米ハ全般的情執カラ有利ト見 殊ニ日ガ漸次弱リ行クモノト感ジテ以テ打切リヲ急グコトナク日ノ讓歩ヲ待ツノ方策ヲ執リツツアリ

或ハ米トシテ考ヘ直スコトアルヤモ知レザルモ現在ノ情况ヲ以テシテハ支那問題ニ於テ我ガ現存條件ヲ固執スル限リ到底成立ノ筈ナキ

海軍

0 1528 191

48

291

3075

7

ノ情勢ヲ充分ニ認識シ大使館員ノ統制ニ比上共意ヲ致シ各人ノ經驗ト才能ニ應セル職務分擔ヲ完カラシメ大使ノ補佐ニ遺憾ナカラシムコトヲ期セラレタシ

追テ往電第六一四號ニハ米側ノ希望ニヨリテハ往電第五九五號ヲ交渉ノ基礎トシ差支ヘナシトノ意ナリ往電第六一七號ノ次第ハアルモ改メ申添フ

外務省

0 1355 20

47

合衆國政府ハ八月下旬當地ニ於テ日本國大使  
 爲サトス、  
 右檢討ヲ加ヘタリ、右檢討ニ基キ次ノ如キ所言ヲ  
 行ヒ且右檢討ニ關聯シ同一問題ニ付之ヨリ曩日本  
 國政府ノ提出セラレタル他ノ通牒ニ付テモ慎重ナル  
 爲サトス、  
 衆國政府ハ右通牒(複數)ニ對シ慎重ナル檢討ヲ  
 行ヒ且右檢討ニ關聯シ同一問題ニ付之ヨリ曩日本  
 國政府ノ提出セラレタル他ノ通牒ニ付テモ慎重ナル  
 爲サトス、  
 合衆國政府ハ八月下旬當地ニ於テ日本國大使

拾月式日合衆國政府覺書記

IMT 569

30

モノト認メラル  
 帝國國力及國內情勢ガ尙若干ノ遷延  
 コ許スモノトセバ今後共交渉ヲ粘リ強ク續  
 行ク事共ニ米ヲ改テ我ニ深入リセシムル策ヲ  
 講ル一方独ニ蘇我調停ヲ實現セシムルバ  
 日米交渉ニ於テ我ガ方立場ヲ一段ト強化  
 スルモノト思フス。

一  
 海軍

第十卷

0 1529 192

49

從一九四一年八月十七日大統領ヨリ日本國大使ニ為サレタル回答ニ於テ斯ル非公式會談ハ平和的手段ニ依リ達成シ得ヘキ進歩的プログラムノ立案ヲ當然豫見スヘキモノナル旨、斯ルプログラムハ通商上ノ機會及待遇ノ均等原則ヲ太平洋全地域ニ適用シ、斯ル一切國家ニ依ル原料品及其他一切ノ必需物資ノ獲得ヲ可能ナラシムヘキ旨ノ見解ノ披瀝セラレ且斯ルプログラムノ採擇ハ日本國ヲ體ム一切ノ國家ニ對シテハ一ニシテ利益ニツキ叙述セラレタリ、結論ニシテ若シ日本國政府カ合衆國ノ遵守シ居ルプログラム及原

ヲ通シ合衆國及日本國間國交調整ヲ實現スル手段ヲ協議セシカ爲、日本國政府及合衆國政府ノ責任アル首腦者ノ會合ヲ開催セシコト及太平洋ノ全局ニ互ル平和的解決ニ関スル交渉ノ基礎アリヤ否ヤヲ確カメンカ爲曩ニ西國間ニ進行中ナリシ非公式會談ヲ再開セントノ日本國政府ノ提議ハ平和ノプログラムノ宏遠ナル目的及原則ヲ促進シ得ル機會ヲ提供スルモノトシテ之ヲ歡迎ス。

當國政府ノ抱懐スル宏汎ナル目標及根本原則ニ照  
 ラシ合衆國國民及政府カ堅持スル根本原則ニ  
 合致スル平和方針ヲ遂行セントスル日本國ノ希  
 望及意圖ヲ表明セル千九百四十一年八月二十八日日本國  
 首相ノ「メッセージ」及日本國政府ノ聲明書ヲ接受  
 セルハ合衆國大統領及政府ノ大ニ欣幸トセル  
 所ナリ、日本國政府ハ其聲明書ニ於テ平和的意  
 圖ニ伴フ近接諸國ニ對シ挑發ナクシテ武力ヲ用フル  
 意圖ヲ有セスト、總括的保障ヲ含ミ廣汎ナル  
 保障ヲ或種ノ留保附ニテ與ヘタリ、又日本國政

別「ライン」ニ沿ヒテ太平洋ニ開スル平和的プログラム  
 ニ着手シ得ルニ於テハ合衆國政府ハ非公公式豫  
 備會談ノ再用ヲ考慮スルノ用意アルヘキ旨及  
 意見交換ノ為適當ナル時期及場所ノ打合ニ欣  
 然努力スヘキ旨言明セシタリ



大統領ハ其政府カ国家間ノ關係ノ基礎ト目シ居ル四原則ヲ及西復セリ

該原則ハ左ノ如シ

- 一、一切ノ国家ノ領土保全及主權ノ尊重
- 二、他國ノ国内内政ノ干渉ノ原則ヲ支持
- 三、通商上ノ機會均等ヲ含ム均等原則ノ支持
- 四、平和的手段ニ依リ變更セラルル場合ヲ除キ太平洋ニ於テハ現狀ノ不攪亂

大統領ハ太平洋問題ノ満足ナル解決ヲ招来センカ爲ニハ非公式會談中西國政府間ニ根本的之意

府ハ大統領ノ要求セル「プログラム」及原則カ單ニ太平洋地域ニ適用セラルルノミナラスハ五世界ニ對スル「プログラム」トシテ之ヲ支持スルヒヨ言明セウレタリ

合衆國政府ハ兩國首腦者會見<sup>支度</sup>準備考慮ヲ出来得ル限リ速カニ行ハントヲ欲スト共ニ右會見カ所期目的ノ達成確保ノ爲特定原則(複數)ノ解釈及(ニ語解説不能)ヲ明白ナラシムルヲ可ト認メ、細目ノ討議ハ本政府ノ意圖ニ非ザリキ、然レトモ本政府ハ所要ノ説明(クワリフエーション)意見合致ヲ促進ノ一方法タルヘキヲ感シタリ、

一九四二年九月三日日本國大使(ノ回答ノ際日本政府ノ)セル諸原則ヲ實際的ニ有效ナラシムル努力ニ合衆國政府ハ衷心ヨリ之ニ協力セントスル希望ヲ表シタリ

( 8 )

見ノ相違ヲ生シタル諸點ニ関シ共通ノ見解及明確ナル合意ニ到達スルノ緊要ナルコトヲ指摘セリ、而シテ大統領ハ之等ノ根本問題ニ関スル日本國政府現在ノ態度ノ表示ヲ要請セリ、九月六日日本國首相ハ在<sup>(東)</sup>京米國大使トノ會談ニ於テ上述四原則ニ主義上賛同ノ具體的通用場合ノ確保シタル旨言明セラレタリ、

上述ノ推移及確約ハ日本國政府ノ為サレタル他ノ諸聲明ト共ニ日本國政府カ人主太平洋地域ニ亘ル狀況、進歩的ナルプログラムニ同調シ且之ヲ実行セラレ

( 109 )

ルモノト為政府カ結論スルヲ正當ナラシムルカ如シ

因テ日本國政府カ明ニ討議ノ具體的基礎タル(キ)モト意圖シタル一四五二年九月六日日本國大使ニ依リ提示セシタル日本國政府ノ提案カ西國政府ノ見解ニ齟齬アルコトヲ明カニスルモノノ如ク思ハレシハ合衆國政府ニトリ失望ノ原因ナリキ、即チ

為政府ノ意見ニ依テ右諸提案及之ニ關聯シ得ザレタル其後ノ説明的諸聲明ハ既述ノ兩國間非公式會談ノ基礎タル諸原則ノ適用ノミナラス全太平洋地域ニ於ケル平和及安定ノ確立及保持ヲ目的トスル

( 11 )

7

既述ハタル通り日本國總理大臣及日本國政府ハ  
 依與ハタル各種廣汎ナル保障ハ極メテ満  
 足ナルモノナリ日本國政府ハ他國家ニ對スル其ノ平和  
 的意圖ニ關スル態度ヲ表明スルニ當リ其必要ヲ  
 容易ニ了解セラレサル如キ或種ノ辭句ヲ以テ其ノ  
 保障ヲ制限シ居レリ、現在ノ事態ニ於テ佛領印度  
 支那ノ隣接諸領域、泰國若ハソヴェット聯邦内  
 ニ於テ日本國ニ對スル何等攻撃的脅威若クハ挑  
 發カ發展シツツアリト想像スルコトハ困難ナリ。  
 奪フ可ラサル自衛ノ權利ハ勿論一切國家ニ依リ充

IMT 569

17

80

( 10 )

ハ汎ナルプログラムヲ實施シ以テ合衆國ト同調セント  
 スル日本國政府ノ希望ニ關シ日本國政府カ與ヘタル  
 諸種ノ保障ヲモ縮小ノ制限スルコトナレリ、

IMT 569

16

59

非公式會談ニ於テ太平洋地域ニ於ケル日本國及米國ノ活動ハ平和的手段ニ依リ且國際通商關係ニ於ケル無差別ノ原則ニ準據シテ行ハルヘキコトヲ規定スル經濟政策ニ關スル一方式(了解案第五章)ニ關シ暫定的合意ニ到達セリ

右方式ニ含マレタル誓約ハ九月六日附日本國政府ノ提案ニ其後ノ日本國政府ヨリノ通報ニ於テ南西太平洋地域(太平洋地域全体ニアラス)ノ諸國ニ局限セラレタリ支那ニ關シ日本國政府ハ無差別ノ原則ヲ尊重スヘキ旨ヲ述ハタルカ此点ニ關聯シ爲サレタル説明

分認メラレ居ルヲ以テ日本國政府力平和的意圖ニ關スル其ノ保障ヲ不必要ナル制限的辭句ト思ハルルヤ辭句ヲ以テ制限セラルル所<sup>レ</sup>果シテ何ヲ意<sup>ス</sup>備セラルルモノナリヤ<sup>レ</sup>休<sup>レ</sup>或<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>疑<sup>レ</sup>問<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>作<sup>レ</sup>ス<sup>レ</sup>ル<sup>レ</sup>次第<sup>レ</sup>ナリ<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>シ

當政府ハ不確定期間支那特定ノ地域ニ軍隊ヲ  
 駐屯セシメントスル要望ノ為ナニシテ日本國政府ノ見解ヲ  
 重視ス、斯ル提案ニ關スル理由(複數)ノ問題ハ之ヲ擯  
 キ日本國カ支那ニ於テ広大ナル地域ヲ軍事的一占領シ  
 居ル秋ニ於テ日支間ノ平和的解決ニ付提議セラルル  
 條件中ニ斯クノ如キ規定ヲ包含セシムルハ異議  
 ノ余地アリ、例之他國ノ領土ヲ軍事的一占領  
 スル一國ノ平和的解決及他ノ地域ヨリノ占領軍隊撤退  
 ノ如キノ條件トシテ特定地域ニ於ケル自國軍隊ノ駐  
 屯繼續方ヲ提議スルハ

ハ日本國政府カ支那ニ對スル地理的連接ノ理由ニ基  
 キ此原則ノ適用ニ於テ或ル制限ヲ意圖シ居ル  
 コトヲ暗示シ居ルヤニ思ハル  
 若シ合衆國又ハ日本國ノ何レカカ或ル地域ニ於テハ  
 一ノ針路又ハ政策ニ從フニ拘ラス同時ニ他ノ地域  
 ニ於テハ之ト反對ノ針路又ハ政策ニ從フニ於テハ日  
 本國政府又ハ當政府ヲ依リ確言セ~~ル~~ル目的ヲ  
 遂行シ難カル(キヲ)明ナリ

( 17 )

日本軍隊ノ支那及佛領印度支那撤退ニ関スル日本國ノ意向ヲ明確ニ宣言スルハ日本國ノ平和的意圖及太平洋地域ニ於ケル將來ノ安定及進歩ノためノ堅實ナル基礎ヲ確立スル為ニ目論マレタル針路ニ從ハントスル日本國ノ希望ヲ知ラシムルニ極メテ有効ナルヘリ右ハ批評的ニ傾カントスル人々ニ對シ特ニ然ルヘシト信ス

歐洲戰争ニ對スル各國ノ態度ニ関シ當政存ハ  
兩國間關係ニ於テ此中ニ関聯シ内極スル困難ヲ  
抑用セザル為更ニ日本國政府ヲ執ラレタル措置ヲ

( 16 )

場合<sup>右</sup>斯ル方法ハ非公式會議ニ於テ討議セラレタル  
進歩的且開化的針路及原則ト軌ヲ一ニセサル  
カ如ク思ハレズ<sup>右</sup>當政府ノ見解ニ依レハ斯カル  
方法ハ平和ヲ招來シ又ハ安定ノ期待ヲ提供スルコト  
ナカルヘシ



(21)

既述ノ如ク南政府ハ日本國首相ノ合衆國大統領  
宛メテ一ジニ伴ヒシ日本國政府ノ声明書ニ包含  
セシ居ル保障即チ日本國政府ハ南政府ノ安定  
セシ國際關係ノ為ニスル唯一健全ナル基礎トシテ  
久シキニ亘リ提唱シ来タル諸原則ニ賛同スル  
旨ノ保障ヲ欲シセリ  
南政府ハ是等根本的諸原則ヲ更ニ考慮  
スルハ吾人カ合意ヲ得テ在リ及シ居ル根  
本的諸問題ニ同意意思ノ合致及斯  
クテ兩國政府首腦者ノ會見ニ對スル

(20)

ルコトニ依リ局限セラルカ如キ「プログラム」ヲ考慮シ  
居ラルヤノ印象ヲ得タリ  
若シ此印象ニ誤リナシトセバ日本國政府ハ斯カル  
事情ノ下ニ在ケル政府責任首腦者ノ會見ハ兩  
國力相互ニ考慮シ居ルカ如キ亦遠シク目的  
ノ増進ニ寄與スヘト思惟セラルヤ





大臣  
次官  
亞細亞局長  
東亞局長

3075

(總 30392)

458

電信課長

昭和十六年十月二日 午前 華府發  
十月三日 午前 本省著  
(機)

極秘 館長符號

野村大使

豊田外務大臣

茅八八七部

先方ノホメニ依リ明日二日午九時ハ此長

官往訪ノ旨 (了)

本電華府発付時百二日午四時四十分ナリ

館長符號電信

0 1545 206

73

REEL No. A-0289

アジア歴史資料センター

3075

UP tokio (from shanghai arrived 8th pm 12 35)

vaughn quote what concisely winter food rationing starvation outlook inclu-  
g colorful details slugged steele requested martin

UP tokio (from newyork arrived 9th am 2 45)

03121 briefly domei/ urges axis quit russia

lo confidential gaikokubucho mitsui bank tokio (from newyork arrived  
9th am 8 22)

ysix/shinraisubeki sujinonaihoo niyoreba nichibeikooshoo mokkanotokoro  
hadamikomi usunituki toochihonpoo ginkooshoo sha kekkyokuwa heitenohok  
akarubeku banjisono mokuhyoonite shorishiyukuo sitootosubesito gosankoo  
made tsuuchisu Mitsuibank

domei tokio (from bombay arrived 9th am 3 29)

newyashi new japminister afghanistan died exheadache 7/10 kabul stop lady  
arrived bombay yesterday lhurry afghanward via peshawar partrain to-  
morning and postermating(?) remains she llback japan again parhiye-  
um miristers ashes royama

信託... 銀行... 目下... 万幸...  
目下、処基多見込薄、付当本邦  
銀行商社結局、困否、外ナラ  
万幸、其ノ目標ニテ、処理ニ行ク、至  
トスヘト、仰答、考、通、報、ス

0 1546

207

299

3075

解成ニスルニアミサレハ 西七ニリ 膠州ノ今多良ハムル 際  
 ナリト思フスルニナリト又 太平洋ノ人至ルノ平利  
 進時ノ為ニハバツアツフレニシタルヲ 解ニテハスノニ  
 シリトアクト、トナリメトトマ 密トスルニナリト  
 申セリ、本使ハバ、回答ニハナリハ 曉カニスル  
 スルナリニモ受ニテ用 併侍者山設スレトホノ 引取リタリ  
 館長符號電信

0 1366 31

76

298

大臣  
 次官  
 亞細亞局長  
 東亞局長

3075

(總)0381

極秘 館長符號  
 野村大使  
 豊田外務大臣  
 昭和一六年拾月二 日前後 華 發  
 十月三 日前後 本省 著 (機)  
 日千前九時方ノホメニ 飲リコハル長トノ 訪  
 シルニメハルハ米ニ 政府ノ回答トシテ 別ニモナ  
 洋ノ文書ヲ予之ニ 且米ニ 政府トシテハ 派メテ  
 館長符號電信

0 1365 30

75

300

大臣  
次官  
要務局長  
東洋局長

3075  
(總)

電信課長

昭和十六年十月二日  
府發  
十月三日  
本省著  
(附)  
(機)

極秘  
館長符號

野村大使  
外務大臣

第八九〇號

館長符號電信

0 1367

32

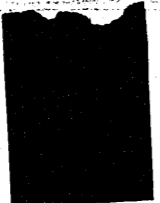
77

REEL No. A-0289

0465

アジア歴史資料センター

301



3075

1

Reference is made to the proposals of the Japanese Government communicated on September 6, 1941, by the Japanese Ambassador to the Secretary of States, and to statement relating thereto. subsequently communicated to this Government by the Japanese Government. Thoughtful study has been given to the communications to which reference is made, and in connection with that study careful review has been made of other communications previously received from the Japanese Government on the same subject. On the basis of this study observations are offered as follows:

The Government of the United States welcome, as affording a possible opportunity for furthering the broad-gauge objectives and principles of a program of peace, the Japanese Government's suggestions made through its Ambassador here in the early part of August that there be held a meeting of the responsible heads of the Japanese Government and of the Government of the United States to discuss means for bringing about an adjustment of relations between the

外務省

0 1368 33

78

302

3075

- 2 -

United States and Japan and that there be resumed the informal conversations which had been in progress between the two countries to ascertain whether there existed a basis for negotiations relative to a peaceful settlement covering the entire Pacific situation.

外務省

0 1369 34

79

REEL No. A-0289



アジア歴史資料センター

3075

(八月十七日米回答)

Accordingly, in the reply made by the President on August 17, 1941, to the Japanese Ambassador the view was expressed that such informal conversations would naturally envisage the working out of a progressive program attainable by peaceful means; that such a program would involve the application in the entire Pacific area of the principle of equality of commercial opportunity and treatment, thus making possible access by all countries to raw materials and to all other essential commodities, and there were described the advantages which would flow to all countries, including Japan, from the adoption of such a program.

In conclusion, it was stated that if the Japanese Government were in position to embark upon a peaceful program for the Pacific along the lines of the program and principles to which the United States is committed, this Government would be prepared to consider resumption of the informal exploratory discussions and would be glad to endeavor to arrange a suitable time and place to exchange views.

外務省

条件  
↑  
千機本海軍  
両首臨印分

0 1370

35

80

3075

3

(八月廿七日日本首相「メッセージ」及政府聲明)

In the light of the broad purposes and fundamental principles which this Government holds, it was gratifying to the President and the Government of the United States to receive the message of the Prime Minister and the statement of the Government of Japan on August 28, 1941, containing statements expressing Japan's desire and intent to pursue courses of peace in harmony with the fundamental principles to which the people and Government of the United States are committed. In its statement the Japanese Government gave, with some qualifications, broad assurances of its peaceful intent, including a comprehensive assurance that the Japanese Government has no intention of using without provocation military force against any neighboring nation. The Japanese Government declared that it supported the program and principles which had been briefly outlined by the President not only as applicable to the Pacific area but also as a program for the entire world.

外務省

0 1371

36

81

The Government of the United States, while desiring to proceed as rapidly as possible with consideration of arrangements for a meeting between the heads of state, felt it desirable, in order to assure that that meeting would accomplish the objectives in view, to clarify the interpretation of certain principles and the practic ideas. It has not been the purpose of <sup>practical application thereof to the concrete</sup> ~~this Government to enter into a discussion of details.~~ this Government has felt, however, that the clarifications ought would afford a means of expediting our effort to arrive at a meeting of minds.

On September 3, 1941, the President in giving reply to the Japanese Ambassador expressed the earnest desire of the Government of the United States to collaborate in efforts to make effective in practice the principles to which the Japanese Government made reference.

⊗ problems in the Pacific area.

外務省

The President reiterated the four principles regarded by this Government as the foundation upon which relations between nations should properly rest?

Those principles are;

1. Respect for the territorial integrity and the sovereignty of each and all nations.
2. Support of the principle of non-interference in the internal affairs of other countries.
3. Support of the principle of equality, including equality of commercial opportunity.
4. Non-disturbance of the status quo in the Pacific except as the status quo may be altered by peaceful means.

The President pointed out that in order to bring about any satisfactory settlement of Pacific questions it was highly important to reach a community of view and a clear agreement upon certain points with respect to which fundamental differences of opinion <sup>between ?</sup> ~~our~~ two Governments had developed in the informal conversations; and the President requested an indication of the President requested an indication of the

四原長

平備文等中  
現レ知  
程レ的意见  
拉レ

大文録、日本  
現在、政變  
明ネラボム

外務省



The foregoing developments and assurances, together with other statements made by the Japanese Government, seemed to justify this Government in concluding that the Japanese Government might be expected to adhere to and to give practical application to a broad progressive program covering the entire Pacific area.

It was therefore a source of disappointment to the Government of the United States that the proposals of the Japanese Government presented by the Japanese Ambassador on September 6, 1941, which the Japanese Government apparently intended should constitute a concrete basis for discussions, appeared to disclose divergence in the concepts of the two Governments. That is to say, those proposals and the subsequent explanatory statements made in regard thereto serve, in the opinion of this Government, to narrow and restrict not only the application of the principles upon which our informal conversations already referred to had been based but also the various assurances given by

時米  
同前  
を以て

九月六日  
提案の  
ヤ本意  
乖離を示す  
ヲ示セリ。

外  
務  
省

- 2 -

present attitude of the Japanese Government with regard to those fundamental questions.

On September 6, the Prime Minister of Japan in a conversation with the American Ambassador at Tokyo stated that he subscribed fully to the four principles above-mentioned. *(The Principle)*

九月六日  
總理米  
會談

外  
務  
省